

校長室だより第 11 号（令和 8 年 6 月 1 日）

今日から 6 月です。朝から快晴で、太陽の威力がすさまじく、校門に 30 分立っているだけで疲弊しました。もう日傘が必要だと実感しています。6 月でもこの日差し。7・8 月はどうなってしまうのでしょうか。心配です。

### そらまめのさやむき体験（1 年生）

1 年生がそらまめのさやむきをしました。栄養教諭や担任からさやむきの方法を教わり、そらまめをととても大切に扱いながら、さやむきをしました。（1 人につき、2～3 本）

この体験をする前（先週）に、子どもたちは、図書館指導員さんから『そらまめくんのベッド』『まめとすみとわら』という絵本の読み聞かせをしてもらっていました。だから子どもたちは、そらまめがふかふかのベッドに包まれていることを知っていました。でも、実際に見るのは今日が初めてです。少し分厚い皮を広げるとロ々に

「大きな豆だ。」

「本当にベッドに寝ているみたい。」

「白いところはふわふわだ。」

「お話の通りに黒いすじがある。」

「そらまめは大きいね。」

「あっ、赤ちゃん豆もいる。」などと声を上げました。

そして中にあるそらまめを大切にに取り出しました。取り出されたそらまめは、学級で大きなかごに集め、給食室に運ばれました。そして、調理され、お昼の給食で全校に配膳されました。

ところでなぜ『そらまめ』と呼ぶかご存知ですか？ヒントは実のでき方にあります。

『そらまめ』も『落花生』も絶妙なネーミングだと私は思います。日本人のセンスの良さを感じます。

また、読書（読み聞かせ）と体験を関連させて行うことで、子どもたちの興味が湧き、意欲的に活動するようになります。

今回の場合で言うと、『そらまめのさやむき体験』だけでも十分に楽しいのですが、事前にお話を聞いたからこそ、「そらまめくんはふかふかのベッドに寝ていると絵本では言っていたけど本当かな？」「黒いすじは本当にあるのかな？」など子どもたちなりの思いをもって活動することができていたと思います。

1 + 1 が 2 以上の効果をもたらすよい例だと考えます。